

## 地方創生関係交付金 (2020年度の活用実績)

# 2020年度 地方創生関係交付金の活用実績

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
福山市総合戦略	総合戦略の推進(期間:2015年度～2020年度)						福山みらい創造ビジョン (期間:2021年度～2025年度)			
地方創生先行型	【完了】									
地方創生加速化交付金		【完了】								
地方創生推進交付金		【完了】だれもが挑戦できるまちづくり								
		【完了】地域資源を活用したまちの魅力・活力創出事業								
		【完了】女性キャリアデザイン支援事業								
			【完了】プロフェッショナル人材活用及び産学官連携による人材スキルアップ事業							
			【完了】備後圏域の魅力ブラッシュアップ事業							
					① 継続 福山城築城400年を核とした地域活性化プロジェクト					
					② 継続 地方における多様な働き方実現プロジェクト					
						③ 新規 本格的な人口減少対策～ペルソナマーケティングによる戦略的な施策展開～				
						④ 新規 Society5.0へのチャレンジ～新たなライフスタイルを実現できる都市スマートシティふくやま～				
						⑤ 新規 福山版MICEの推進～都市のポテンシャルを引き出し、経済を活性化する～				
							⑦ 2021年度新規 稼ぐ力を高める備後圏域トータルプロデュース			
地方創生拠点整備交付金		【完了】水呑交流館								
			【完了】美術館茶室							
まち・ひと・しごと創生寄附活用事業 (企業版ふるさと納税)			【完了】夢・希望の実現による福山未来づくりプロジェクト							
					⑥ 継続 福山城築城400年～城のあるまち福のまちプロジェクト～					

計画名	福山城築城400年を核とした地域活性化プロジェクト	計画期間	2019年度～2022年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2019年度 実績額 29百万円 (14百万円)	2020年度 実績額 10百万円 (5百万円)	2021年度 計画額 33百万円 (16百万円)	2022年度 計画額 4百万円 (2百万円)	合計 76百万円 (37百万円)
概要	福山城築城400年の取組を通じ、歴史や文化、伝統産業を担う人材を確保するとともに、歴史・文化資源を新たな人の流れを作り出す資源に変化させる。								

## 1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2019年)	実績値(2020年)	目標値(2020年)	目標値(2022年)
総観光客数	725万人 (2017年)	630万人	379万人	772万人	825万人
福山市文化ゾーンの来場者数	410千人 (2017年)	351千人	131千人	416千人	437千人
2022年に福山城が築城400年を迎えることを知っている市民の割合	40.7% (2017年)	46.8%	45.8%	60.7%	80.7%

## 2 主な事業内容

※総観光客数は、2019年から算出方法を「広島県観光客統計調査に関するガイドライン」に沿って算出

### (1) 福山城築城400年記念事業（実績額：3百万円） ※企業版ふるさと納税充当：なし

福山城築城400年を契機として、歴史・文化資源等の価値の磨き上げや魅力発信を行い、城があるまち福山を市民全体の誇りとする。

#### 2020年度の主な取組

- 旧福山藩主阿部家の歴史的資料等を展示する企画展の実施
- 市内小中学生の福山に対する誇りと愛着の醸成



【阿部家企画展】

#### 実績・成果

- 阿部正直の雲气流研究に係る資料の展示会を開催「雲の伯爵 富士山と向き合う阿部正直」展（来場者数：442人、企画展の満足度：80%）
- 市内小中学生のふるさと学習に使用する教材「大好き！福山～ふるさと学習～」を再編集及びデジタル化

※実施を予定していた市民企画事業、全国落校サミット福山大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で未実施

#### 課題

- 2022年に福山城築城400年を迎えることについて、市民の認知度が高まっていない。

#### 今後の取組

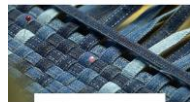
- 市民認知度の向上に向けて、情報発信の強化や市民を巻き込んだ取組を進める。

### (2) 備後地域資源販路開拓事業（実績額：5百万円）

初代福山藩主が奨励した綿花栽培に端を発するデニムの産地・製品のPRを行い、歴史・文化資源の魅力の再認識につなげる。

#### 2020年度の主な取組

- 備後圏域と高梁川流域の産地連携の促進
- 備中備後デニムコンテストの開催



【オンライン展示会HP】

#### 実績・成果

- 高梁川流域圏域と連携したデニムのオンライン展示会を開催（参加企業数：22社、アクセス数：1,659件）  
※圏域外の他業種を含むメーカーやデザイナー等との展示商談会を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施内容を変更
- 誰もが簡単に参加できる備中備後デニムコンテスト（写真・イラスト・川柳の3部門）を開催（応募作品件数：合計3,412件）

#### 課題

- デニム製造の中間工程を担う事業者の認知度が高まっていない。

#### 今後の取組

- 更なる認知度向上のため、事業者と連携して、より効果的な展示会を実施できるよう取り組んでいく。

## 事業の評価

事業効果	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった
	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input type="radio"/>	地方創生に効果があった
	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

## 主な委員意見

- コロナの影響もあり、総観光客数、福山市文化ゾーンの来場者数も未達はやむを得ない部分もあるが、築城400年を迎えることについての市民認知度の低さが大きな課題。
- 広く一般の市民に対してだけでなく、ターゲット層を絞ったPRも必要ではないか。
- 観光名所としての福山に市内外から観光客を呼び込むためには、福山城築城400年のPRだけではインパクトが薄く、福山版MICEや他のイベントも同時に立ち上げ、これらイベントと同時進行でPRする必要があると考える。
- 福山城築城400年記念事業等で目論む地域活性化は福山市域全域を対象とすべきであり、福山市内には神辺城址もあることから、市内に存する歴史・文化資源等の磨き上げも福山城公園という「点」ではなく、市域全域という「面」的に取り組むのが望ましいと考える。
- 備後地域資源販路開拓事業は、コロナ対策としてオンラインによる展示会開催によりデニム産地・製品のPRができ、文化資源としての魅力再認識につながったものとする。

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。（2021年8月13日～19日 書面開催）

計画名	地方における多様な働き方実現プロジェクト	計画期間	2019年度～2021年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2019年度 実績額 12百万円 (6百万円)	2020年度 実績額 8百万円 (4百万円)	2021年度 計画額 16百万円 (8百万円)	合計	36百万円 (18百万円)
概要	兼業・副業など人材や活動場所をシェアする取組を市内企業に広げ、多様な人材や企業、仕事の集積につなげる。								

1 KPIの進捗

※交流拠点：異分野・異業種の様々な人材交流を促進するための場

関連するKPI	事業開始前	実績値(2019年)	実績値(2020年)	目標値(2020年)	目標値(2021年)
交流拠点(※)を活用し、兼業・副業の人材を受け入れた市内企業の数	—	0社	0社	3社	10社
交流拠点の利用者数	—	0人	15人	1,150人	2,650人
交流拠点の活用から既存の創業相談窓口Fuku-Bizに創業相談した件数	—	0件	0件	10件	30件

2 主な事業内容

(1) ワークेशन推進事業 (実績額：4百万円)

首都圏等の人材や企業に福山で働く・暮らす・地域交流を体験してもらう機会を提供し、新たな働き方の実践・促進につなげる。

2020年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 受入環境の整備</li> <li>○ 首都圏等の企業と市内企業や地域とのマッチングの促進</li> <li>○ 情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宿泊施設やコワーキングスペースなど、市内でワークेशनを体験できる施設を協力施設として登録（協力施設数：16施設、利用者数：230人(2020年8月～2021年3月)）</li> <li>○ 医療版ワークेशनの試験実施など、ワークेशनを実施する首都圏等の企業と市内企業や地域をマッチング（マッチング数：3件）</li> <li>○ 公式ウェブサイトを開設（2021年3月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍において人の移動が抑制され、首都圏の企業・人材等の積極的な誘致が困難。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見極めつつ、ワークेशनの取組を備後圏域に拡大し、圏域の特色ある資源を組み合わせ、ワークेशन体験者の多様なニーズに応える。</li> </ul>



【ワークेशनふくやま】

(2) 高度専門人材活用推進事業 (実績額：1百万円)

兼業・副業人材の活用に関する企業向けセミナーを開催することで、市内企業への普及促進をめざす。

2020年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 兼業・副業普及支援</li> <li>○ 首都圏人材還流支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国の企業や地方自治体等を対象に兼業・副業フォーラムを開催(オンライン配信)「兼業・副業って実際どうなの？-広島県福山市の『戦略推進マネージャー』活用事例にまなぶ-」（参加者数：73人）</li> <li>○ 備後圏域の企業を対象に無料セミナーを開催「兼業・副業人材活用でコロナに打ち勝つ！」（参加企業数：14社（15人）、うち兼業・副業人材の活用希望割合：71%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際の活用を促すため、市内企業へ兼業・副業人材を活用するメリットを周知する取組が必要。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市内企業における兼業・副業人材活用モデルケースとなる事例を創出し、活用事例を広く情報発信することで、兼業・副業人材活用の普及促進を促す。</li> </ul>



【兼業・副業セミナー】

事業の評価	
事業効果	○ 地方創生に非常に効果的であった
	○ 地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	○ 地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークेशन推進事業及び高度専門人材活用推進とも機会提供によりコロナ禍に伴う今後の企業活動の中で新たな働き方の普及・促進の一助となったもの考える。</li> <li>○ 宿泊施設やコワーキングスペースの活用によるワークेशनの創出に引き続き取り組むことで、コロナ禍における新たな働き方への意識醸成につながると考える。</li> <li>○ 圏域内に拡大することはベターではあるが、首都圏にはない特色ある圏域内の様々な資源をどう組み合わせるかが肝になると思う。首都圏にはない資源の掘り起こしが必要ではないか。</li> <li>○ コロナ禍でも実施可能な取組を考えてはどうか。例えば、兼業・副業などの多様な働き方は福山在勤の方も可能であり、市内企業における兼業・副業の理解促進(受入れだけでなく、従業員の兼業・副業の促進)にも取り組むべきではないか。</li> <li>○ 兼業・副業の導入に向けた取組支援は、民間でも事業が多数ある状況。官の支援をどのような形で終息(もしくは継続)させるのか整理が必要ではないか。</li> </ul>	

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2021年8月13日～19日 書面開催)

# 3 地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2020年度実績）

※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	本格的な人口減少対策～ペルソナマーケティングによる戦略的な施策展開～	計画期間	2020年度～2022年度	事業費 (うち交付金充当額)	2020年度 実績額	2021年度 計画額	2022年度 計画額	合計
概要	ペルソナマーケティングによる施策の再構築を進め、若者や子育て女性にとって働きやすい・住みやすい地方都市を実現する。				6百万円 (3百万円)	28百万円 (14百万円)	14百万円 (7百万円)	48百万円 (24百万円)

## 1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2020年)	目標値(2020年)	目標値(2022年)
女性向け合同企業説明会での内定者数	—	2人	5人	10人
自分の時間が持てる子育て共働き女性の割合	82.4% (2019年)	— (※)	91.2%	100%
企業・団体等が新たに連携して実施した子育て支援の取組数	—	0件	0件	19件

事業の評価	
事業効果	地方創生に非常に効果的であった
	地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	地方創生に対して効果がなかった

## 2 主な事業内容

※次回2021年調査

### (1) 女性雇用対策事業（実績額：2百万円）

女性活躍推進の啓発のほか、仕事と子育て・妊娠を両立できる環境づくりに向けた企業の働き方改革の実践に対する支援を行う。

2020年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 女性向け合同企業説明会の実施</li> <li>○ 女性活躍推進啓発講座の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市内の「女性が働きやすい企業」を中心とした、女性向け合同企業説明会を実施(参加者数:34人, 参加企業数:14社, マッチング数:2人)</li> <li>○ 働き方改革や女性活躍の視点からオンラインセミナーを実施(参加者数:64人)</li> <li>・参加企業から「働き方改革を企業内で進めていく上での考え方や事例等が非常に参考となった」との意見があった。</li> <li>○ ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者のうち、特に優れた取組を行っている事業者を男女共同参画フォーラムで表彰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合同企業説明会において、マッチング率を向上させるための仕組みづくりが必要。</li> <li>○ ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者の増加に向けた取組強化が必要。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 説明会マッチング率向上のための仕組みづくりを検討するとともに、参加企業の増加に向け、県や関係機関と連携しつつ、事業周知を強化する。</li> <li>○ 認定事業者の更なる増加を図るため、企業へ認定のメリットを周知するなど啓発を進めるほか、学生等へ制度を周知し、働きやすい職場環境づくりに取り組む企業として認定事業者を認知してもらう。</li> </ul>



【男女共同参画推進事業者表彰】

### (2) 企業の採用力強化事業（実績額：1百万円）

企業経営者・人事担当者向けの採用力強化研修を行い、働きやすい職場環境づくりを行う企業と若者等とのマッチングにつなげていく。

2020年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企業経営者・人事担当者向けの採用力強化研修を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福山地方雇用対策協議会と連携し、備後圏域企業を対象に、企業経営者・人事担当者向けの採用力強化オンライン研修を実施(3回開催, 参加者数:延べ50人)</li> <li>・参加企業から、「自社説明会や選考への応募者が増えた」などの意見があり、採用活動の強化につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 採用活動についてのオンライン化に対する学生ニーズが高いため、それに対応できるよう市内企業への支援が必要。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 従来、対面型を基本としていたインターンシップなどの採用活動について、オンラインによるリモート開催を企業に促す取組を行う。</li> </ul>

## 主な委員意見

- 女性雇用対策事業及び企業の採用力強化事業とも地方創生に向けた重要案件だと考える。企業説明会・オンライン研修会等実施により職場環境づくりとして企業意識へつながっているものとする。
- 女性の雇用に関しては、保育環境の整備、待機児童の解消に力を入れて、育児からの復帰しやすい環境を整えることが一番だと考える。
- 働き方改革を実践する企業の取組情報をいかに発信するかが大事ではないか。
- 市内企業(特に中小企業)の採用力強化は、コロナ禍でオンライン就活となっている状況(移動に係る時間・費用が少なくなるため、首都圏等の人材を確保しやすいはず)からみれば、急務である。中小企業は採用活動に人的・費用的リソースを割けないことから、福山地方雇用対策協議会等がその支援に取り組むべきである。オンライン就活は距離的・費用的負担が軽減されることから、大都市圏等の他地域に優れた人材が奪われる結果に至ることが大いに危惧される。

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2021年8月13日～19日 書面開催)



# 4 地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2020年度実績）

※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	Society5.0へのチャレンジ～新たなライフスタイルを実現できる都市スマートシティふくやま～	計画期間	2020年度～2022年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2020年度 実績額 35百万円 (17百万円)	2021年度 計画額 125百万円 (62百万円)	2022年度 計画額 103百万円 (51百万円)	合計	263百万円 (130百万円)
概要	先端技術とデータの活用による新たなライフスタイルを実現できる都市をめざす。								

## 1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2020年)	目標値(2020年)	目標値(2022年)
ICT等を活用した健康サービスを利用する高齢者の割合	—	未実施(※)	3%	4%
地域事業者と連携した新たなサービス数	—	1件	0件	2件
ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者数	105社(2018年)	135社	130社	150社

## 2 主な事業内容

※新型コロナウイルス感染症の影響により、事業未実施（ICT等を活用したフレイルチェック会の開催）

### (1) 先端技術活用推進事業（スマートシティに向けた取組）（実績額：34百万円）

ICT戦略の重点分野を中心とした先端技術の導入や啓発によるスマートシティの推進のほか、産業や地域のデジタル化を進める。

2020年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化の支援や課題解決のための仕組みの構築</li> <li>子どもたちが先端技術に触れる機会の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業や地域のデジタル化を推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・備後圏域企業等を対象に、ICT導入や活用の個別相談に対応する相談窓口「びんごICT相談所」を設置・運営</li> <li>・びんごデジタルラボを試行実施                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「ものづくりラボ」（対象：主に市内企業，参加者数：約100人）</li> <li>「地域活動ラボ」（対象：地域団体等，参加者数：約140人）</li> <li>「キッズラボ」を開催（参加者数：約500人）</li> </ul> </li> <li>バス型車両による自動走行実証実験を実施（2021年3月25・26日）（参加者数：約100人）                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗車後アンケートでは、参加者の自動走行技術に対する信頼度が上昇した。また、自動走行車両が都市魅力の向上への活用されているとの示唆を得た。</li> </ul> </li> <li>・教職員等のICT活用(学習アプリ作成)研修を実施(参加者数：14人)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先端技術の活用に対する市内中小企業経営者の意識変革を促す取組が必要。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ラボに参加する市民・企業等を増やすための仕組みづくりのほか、動画アーカイブなどを活用して情報発信を強化し、多くのデジタル化の成功事例を可視化することで、企業の意識改革につなげる。</li> </ul>



【キッズラボ】

### (2) 実証実験まるごとサポート事業（実績額：1百万円）

民間企業による先端技術を活用した実証実験を支援することで、地域課題の解決や市民生活の質の向上等につなげる。

2020年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業による先端技術を活用した実証実験の募集及び支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証実験まるごとサポート事業補助金制度の支援内容を拡充（実証実験経費の補助）（支援決定数：5件(うち経費の補助2件)）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホアプリとウェアラブル端末を活用した健康推進及び体調変化の早期発見</li> <li>・IoTを活用した出沒検知センサー及びダッシュボードシステムによるデータに基づいた害獣対策</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先端技術の実証フィールドとして、首都圏等における福山市の認知度が高まっていない。</li> </ul>
		今後の取組
		<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化事例を紹介するびんごデジタルラボや首都圏から人材を招集するふくやまビジネスキャンプなどの他事業と連携し、情報発信を強化する。</li> </ul>

事業の評価	
事業効果	地方創生に非常に効果的であった
	○ 地方創生に相当程度効果があった
	地方創生に効果があった
	地方創生に対して効果がなかった
主な委員意見	

- デジタル化の推進は、当地域内でのIT等活用を考えると、先端技術の導入までは厳しい状況下にある。これまでの取組により、デジタル化への意識醸成がある程度確立されたと考える。今後、成功事例の可視化が予定されているが、意識改革に十分効果があると考えられる。
- 先端技術を活用するメリットを中小企業経営者の方に理解していただくために、具体的に身近な成功事例を複数準備してはどうか。経営者の不安を払拭し、導入につなげる近道と考える。
- 先端技術推進事業は着実に成果を上げており、継続的な取組が期待される。
- 社会経済を取り巻く環境とも合致しており、今後も積極的に進めていくべき。
- 市内企業のDX推進にも注力し、競争力強化の取組が必要ではないか。

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。（2021年8月13日～19日 書面開催）

# 5 地方創生推進交付金を活用した事業の状況（2020年度実績）

※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	福山版MICEの推進～都市のポテンシャルを引き出し、経済を活性化する～	計画期間	2020年度～2022年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2020年度 実績額 9百万円 (5百万円)	2021年度 計画額 31百万円 (16百万円)	2022年度 計画額 34百万円 (17百万円)	合計 74百万円 (38百万円)
概要	MICEを通じて、国内外から新たな人や企業の流れを創出し、都市の持つポテンシャルを引き出しながら、地域経済の活性化につなげる。							

## 1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値(2020年)	目標値(2020年)	目標値(2022年)
福山市におけるMICE開催件数	58件(2018年)	16件	62件	70件
総観光消費額	32,301百万円(2018年)	18,723百万円	33,734百万円	36,631百万円

## 2 主な事業内容

### (1) 世界バラ会議福山大会の開催に向けた取組（実績額：7百万円）

2025年(令和7年)の世界バラ会議福山大会を、ばらのまち福山にふさわしい大会となるよう市民と行政の協働により創り上げる。

2020年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界バラ会議福山大会実行委員会の設立</li> <li>○ 第20回世界バラ会議福山大会2025実施計画の策定</li> <li>○ 福山大会ロゴの決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実施計画を策定(2021年3月)</li> <li>○ 世界バラ会議福山大会の公式ウェブサイトとPR動画を制作(公開・配信は2021年4月)</li> <li>○ ばらのまち福山に世界の人々が集うことを表す、福山大会ロゴを決定(2021年2月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界バラ会議福山大会開催の市内認知度向上のため、更なる認知拡大に取り組む必要がある。(市内認知度:15.6%(2020年度インターネット調査))</li> </ul>
	 <p>第20回 世界バラ会議 福山大会 2025 WFRS 20th WORLD ROSE CONVENTION 2025 in FUKUYAMA</p>	
	<h4>今後の取組</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ みんなで創る、盛り上げる大会とするためには、市民の関心を高め、大会の準備段階から参画してもらうことが重要。大会ウェブサイトやSNSでの情報発信と共に、会場を彩るばらの育成など、多くの市民が参画できる機会の創出に取り組む。</li> </ul>	

### (2) MICE誘致推進事業（実績額：2百万円）

MICE誘致ディレクターの知見を生かした首都圏等でのセールス活動を行い、ターゲット分野の誘致を図る。

2020年度の主な取組	実績・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ MICE誘致ディレクターとの連携</li> <li>○ MICEの受入体制の整備</li> <li>○ 福山市MICE推進協議会の設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光やホテル、バス、タクシー団体などの委員から成る福山市MICE推進協議会を設立、開催(2回)</li> <li>○ MICEプランナーズガイド2021広告掲載(2021年3月)</li> <li>○ 主催者向けMICE開催ガイドライン(福山版)を公表(2020年12月)</li> <li>○ 第26回ロボティクスシンポジアのオンライン開催を支援(2021年3月16日・17日)</li> <li>○ 市風景をオンライン会議のバーチャル背景として提供など ※新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後のMICE誘致を進める上で、ターゲットを明確にした情報発信やコンテンツの磨き上げを進める必要がある。</li> </ul>
	<h4>今後の取組</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明確なターゲットの設定やコンテンツの磨き上げのほか、感染対策強化などのポストコロナを見据えた環境整備等を行い、より効果的な各種企画の構築・情報発信力の強化に取り組む。</li> </ul>	

事業の評価	
事業効果	地方創生に非常に効果的であった
	地方創生に相当程度効果があった
	○ 地方創生に効果があった
	地方創生に対して効果がなかった

#### 主な委員意見

- 組織体制の確立・整備・連携と、ばらのまち福山にふさわしく、市民と行政の協働により創り上げられていると感じる。
- ポストコロナを見据えながら、「今出来ること、将来にむけて必要なこと」を整理し、実行していくことを願いたい。
- 国内外から新たな人や企業の流れを創出するために、MICEの推進は今後も必要不可欠な取組であると考えている。
- 今後のMICE誘致に当たっては、適切にテーマや対象者等を絞る必要があるのではないかと。
- 「産業MICE」は福山ならではの取組に育つと考えられるため、まずは国内を対象とした業界団体の会合実施等の「産業MICE」から着手してはどうか。
- MICE開催の決定権は主催者であり、開催決定となる環境が大事である。大きな施設を持たない福山市は、ユニークベニューを含めた魅力ある施設をエリアでつないでの誘致に全力を挙げるほか、エリア間の交通助成などの環境整備が必要。インバウンドに対応したサインはもちろん、飲食店へのインバウンドに対する助成も必要ではないかと。

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2021年8月13日～19日 書面開催)

# まち・ひと・しごと創生寄附活用事業（企業版ふるさと納税）の状況（2020年度実績） ※「事業費」は、交付対象分の金額を記載。

計画名	福山城築城400年～城のあるまち福のまちプロジェクト～	計画期間	2019年度～2022年度	事業費 (うち寄附金充当額)		2019年度実績額	368百万円 (20万円)	2020年度実績額	370百万円 (12百万円)	2021年度計画額	987百万円 (10百万円)	2022年度計画額	650百万円 (10百万円)	合計	2,375百万円 (32百万円)
概要	福山城やその周辺の整備を進め、歴史・文化資源等の価値向上や魅力発信に取り組む。														

## 1 KPIの進捗

関連するKPI	事業開始前	実績値 (2019年)	実績値 (2020年)	目標値 (2020年)	目標値 (2022年)
総観光客数	725万人 (2017年)	630万人	379万人	772万人	825万人
福山市文化ゾーンの来場者数	410千人 (2017年)	351千人	131千人	416千人	437千人

※総観光客数は、2019年から算出方法を「広島県観光客統計調査に関するガイドライン」に沿って算出

## 2 主な事業内容

### 2020年度の主な取組

#### ○ 福山城及び周辺整備事業

- 福山城及び周辺整備事業
  - ・福山城博物館等の耐震改修
  - ・福山城公園の施設整備

### 課題・今後の取組

- 福山城築城400年を迎える2022年度に向けて、福山城及びその周辺整備を進め、歴史・文化資源等の価値の磨き上げや市内外への情報発信を進める。



【改修後のイメージ】

### 事業の評価

事業効果		地方創生に非常に効果的であった
		地方創生に相当程度効果があった
	○	地方創生に効果があった
		地方創生に対して効果がなかった

### 主な委員意見

- 総観光客数や福山市文化ゾーンの来場者数はコロナ禍により減少したが、福山城の周辺整備を始め、博物館等の耐震改修、福山城公園の整備等は順調に進捗しているように思われ、福山城築城400年を迎える2022年には、駅周辺の活性化に向けた事業効果が期待できる。
- 福山城築城400年を迎える2022年8月以降、生まれ変わった福山城の姿だけではなく、福山城を含めた広場・周辺一帯でイベント等実施することで、歴史・文化資源に触れてもらう機会をつくるべきではないか。
- 福山城と福山の文化や資源が一体となった取組を考えるべきではないか。
- 「価値の磨き上げ」として具体的に、どのような事業を実施するのか(例えば駅前再生で行っているトレジャー・ハンティングのような“地域の宝探し”イベントの実施等)を考え、実施すべきではないか。

※福山みらいづくり推進会議において、外部委員による事業評価を行った。(2021年8月13日～19日 書面開催)



# 7 新たに認定された地方創生推進交付金を活用する事業（概要）

計画名	稼ぐ力を高める備後圏域トータルプロデュース	計画期間	2021年度～2023年度	事業費 (うち交付金 充当額)	2021年度 計画額	2022年度 計画額	2023年度 計画額	合計
概要	備後圏域全体で経済を支える基盤を構築し、広域連携の強みである多様な人材・産業を生かした持続可能な地域経済を確立する。				19百万円 (9百万円)	29百万円 (15百万円)	16百万円 (8百万円)	64百万円 (32百万円)

## 1 KPI

関連するKPI	事業開始前	目標値（2023年）
域内総生産（備後圏域市町）	32,425億円 (2016年)	34,269億円
従業員1人当たり粗付加価値額	1,079万円 (2019年)	1,115万円
福山市への転職者数	10人 (2019年)	16人

## 2 主な事業内容

- 備後圏域の強みを生かした地域商社機能の確立
  - ・ 域内循環の強化に向けた最適な手法の検討・実施
  
- 企業の稼ぐ力の底上げ
  - ・ 顧客ニーズや市場動向等を踏まえたマーケティング戦略の立案、企画開発、販路開拓などのトータルコーディネートの実施
  - ・ 国内外のイベント、商談会等への参加による製品や技術のPR事業
  - ・ 企業を対象としたマーケティングセミナーの実施
  - ・ 大学の技術研究や企業の商品開発に向けた活動支援
  - ・ 多分野にわたる大学、企業等とのマッチング機会の創出
  - ・ 経営改善講座や専門家による相談事業
  
- 地域経済を支える人材の確保・育成
  - ・ 首都圏人材等をターゲットにした地域経済を支える人材の確保
  - ・ 若者（高校生や大学生等）をターゲットとした備後圏域企業への就職促進
  - ・ 福山ビジネスサポートセンター等を中心とした創業・新ビジネス創出支援